

1994.1
第17号

博物館だより

大津市歴史博物館



広重画 近江八景のうち石山秋月

近江八景展を開催

2月1日(火)～2月27日(日)

あけまして

おめでとうございます

平素は大津市歴史博物館に対して格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

当館も平成二年十月二十八日に開館して早や四回目の新春を迎えることになりました。昨年は四万人を超える「大北斎展」や皇太子ご夫妻を迎えての「琵琶湖の船」、市制九十五周年記念の「よみがえる大津京」などを開催し、おかげさまでいずれも盛大裡で終わることができました。観覧者数も五年十一月末で三三五四五九人を数えています。

今年の企画展として四月二十三日から真盛上人五百回遠忌記念「西教寺と天台真盛宗の秘宝」、八月二日から「横山大観と菱田春草」、十月八日から没後三百年記念「松尾芭蕉」を考えています。

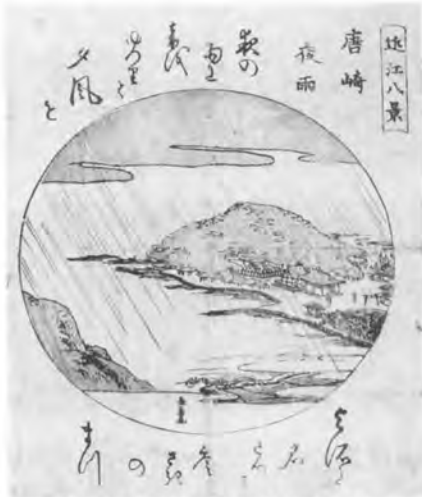
本年も多くの人々に親しまれる博物館をめざして館員が一体となつてつとめたいと思いますので、より一層のご指導をいただきますようお願い申し上げます。

大津市歴史博物館館長 木村 至宏

近江八景展の概要

大津市歴史博物館では、平成六年二月一日(火)から同二十八日(木)まで、特別陳列「近江八景」を開催します。広々とした湖水が広がり、その水平線には淡い山影が浮かんでいる。当然ながら、この近江の地は、湖辺を中心に、古来より様々な場所が歌によまれ、絵にも描かれてきました。それが中国の瀟湘八景に見立てられるようになり、そして現在知られる所の近江八景に定まったのは近世に入ってからのことです。寛永の三筆として著名な近衛信尹(一五六五―一六一四)による選定というのが定説となっています。

そして、近世の町人層を中心に華開いた民衆文化と、加えて街道の整備に伴う旅行熱とあいまって、近江八景は絵画や工芸の好画題として人々の間に普及してゆき、ついには広重の近江八景という不朽の名作を、浮



長喜画 近江八景のうち唐崎夜雨

世絵という、世界に類を見ない洗練された大衆芸術の中に残っていたのでした。ちなみに広重は二十数種の近江八景図を描いていますが、このことは、名所絵師として名を上げた広重において、とりわけ近江八景が人々に根強い人気を保っていたことを物語っています。本展はこの様に多くの人々の旅情を誘い、その風光を觀しつめた近江八景をとりあげ、絵画や工芸といった美術を中心にした館藏品によって紹介しようとするものです。展示作品は、屏風絵・画卷・浮世絵・蒔絵・染付・絵図・刺繍など約五十点です。

なお会期中、当館講堂で講演会と展示品解説を開催します。

近江八景展では、次のような作品を展示し、皆さんをお待ちしています。

広重画 保永堂・栄久堂版近江八景

大判・横絵 天保五年(一八三四)頃
江戸における評判記の画工の部で広重は「めいしよ」と紹介されているように、彼は数々の名所版画の傑作を世に送り出した。この保永堂・栄久堂版近江八景もそのひとつである。かの有名な「東海道五十三駅統絵」の奥の広告文の目録にこの作品名が確認されることから、まさに彼の作画人生の高揚期に描かれた作品のひとつであることがわかる。

栄松齋長喜画 近江八景

生没年は明らかでないが、天明(一七八一―一八九)から文化六年(一八〇九)頃に活躍した浮世絵師である。伝存する長喜執筆の黄表紙の落款や挿絵の作風により、寛政五十六年(一七九三―一七九四)頃と推定されている。純風景を描いた版画の近江八景図としては比較的初期の作例である。



広重画 近江八景のうち栗津晴嵐

その他、左記の作品等を展示します。

近江名所図屏風

伊東探水筆 近江八景図

景徳鎮筆 青花琵琶湖八景図磁板

近江八景蒔絵文台

東海道分間絵図

「よみがえる大津京」展終わる

平成五年九月二十九日から十一月十四日まで、四十日間にわたって開催しました大津市制九十五周年記念特別展「古代の宮都―よみがえる大津京」は、おかげさまでもちまして無事その会期を終えることができました。開催期間中には、一・二・三四七人という多くの方々にこの展覧会を訪れていただきました。

今回の展覧会は、大津の古代を代表する遺跡「大津京」について、今日までの発掘調査結果を基に、大津京・壬申の乱に関連する遺跡や各宮部の出土品などを通して、大津京の姿をわかりやすく紹介しました。展覧会には、大津宮の建物復元模型をはじめ、崇福寺跡

・平城京・平安京などからの出土品を中心に二〇〇件を超える資料を展示しました。

なお、会期中の十月十七日には、上田正昭・村井康彦・田中琢・田辺昭三の四名の先生によるシンポジウム「大津京、その謎を追う」を開催し、三〇〇名を超える多くの方々の参加をいただきました。なお、この内容はNHK教育テレビで全国放映されました。

収藏品紹介 ①⑥

崇福寺跡出土銅製花蝶文八花小鏡

奈良時代 直径六・五cm
近江神宮藏（本館寄託）

崇福寺跡は、大津市滋賀里の集落の西方山中にあり、東西に細長くのびる三つの尾根を利用して造られた白鳳時代の創建になる寺院である。大津京所在地論争がはなばなしく行われていた頃には、『扶桑略記』に記載された崇福寺創建に関する記述（大津宮の乾の方向に位置する）から、逆に大津宮の位置を求める方法が試みられていた。現在、三つの尾根上には、金堂・講堂（南尾根）、塔・小金堂（中尾根）、弥勒堂（北尾根）などの建物が確認されており、出土遺物や建物の方位の違いなどから、北・中尾根の建物群を崇福寺に、南尾根のそれを桓武天皇が天智天皇追慕のために建立した梵釈寺とする考え方が定説化しつつある。

同寺院は、昭和三年・十三年の二回にわたる発掘調査が行われ、先にみた建物群に伴って、白鳳時代から平安時代にかけての遺物が多量に出土している。大部分は瓦類がしめられているが、埴土・泥塔・和同開珎・皇朝十二銭・銅鏡・銅匙・陶甎などの貴重な資料も多く含まれており、なかでもっともよく知られているのが、塔心礎から発見された舍利容器（国宝）だろう。ここで紹介する銅製花蝶文八花小鏡も崇福寺跡から出土した遺物の一つである。

この鏡は、昭和三年・十三年の発掘調査で出土したものでなく、崇福寺出土と伝える遺物のため、出土

地点や出土状況など詳しいことはわかっていない。直径六・五cmの小型の白銅鏡で、周縁の厚さは〇・三cm程である。鏡背の文様はやや不鮮明であるが、界線を境に内・外区に分かれ、内区には鈕の周囲に花蝶を配する。外区には界線に沿うようにして八個の花状の文様（雲の文様ともいう）が描かれている。周縁は円形ではなく、八枚の花弁状に作られており、そこから「八花小鏡」の名が付けられている。本例は、陶硯・和同開珎・皇朝十二銭とともに重要美術品となっている。

なお、これと同系統のものが興福寺金堂の須弥壇から出土した鎮壇具などいくつか報告されており、本例も建物の鎮壇具として埋納したものではないかとの考え方も出されている。

（松浦俊和）



博物館の催しもの

■展覧会

◇特別陳列「近江八景」

(期間) 二月一日(火)～同二十七日(日)

◇特別展「西教寺と天台真盛宗の秘宝」

(期間) 四月二十三日(土)～六月五日(日)

◇企画展「横山大観と菱田春草」

(期間) 八月二日(火)～九月十二日(日)

◇企画展「松尾芭蕉」

(期間) 十月八日(土)～十一月十三日(日)

■講演会

◇「近江八景」展記念講演会

(題名) 近江八景と湖国

(日時) 二月五日(土)

(講師) 木村至宏(本館館長)

■土曜講座

◇「近江八景」展展示品解説

(日時) 二月十九日

(講師) 横谷賢一郎(本館学芸員)

◇平成五年度遺跡の発掘調査報告Ⅰ・Ⅱ

(日時) 二月二十六日・三月五日

(講師) 教育委員会文化課技師

◇考古学入門Ⅰ・Ⅱ

(日時) 三月十九日・同二十六日

(講師) 吉水眞彦(本館学芸員)

*講演会・講座の開始時間はいずれも午後一時三十分～三時、詳しくは歴史博物館へ。

博物館日記抄

9月9日
12月4日

- 九月九日 「琵琶湖は現代」(大津びわこライオンズクラブ30周年記念写真展) 開かれる(17日まで)
- 11日 親子歴史講座(膳所の町並みを探検しよう)
- 14日 大津写真展(19日まで)
- 18日 第69回土曜講座(大津祭の歴史Ⅰ)
- 25日 第70回土曜講座(大津祭の歴史Ⅱ)、交通史研究会開催される
- 28日 大津市制九十五周年記念・開館三周年記念「よみがえる大津京」展の会場式およびレセプションを開催
- 29日 大津京展一般公開、日野喜美男氏(福岡県赤池町長) 来館
- 30日 ふるさと大津歴史文庫第10冊目「大津の文学」四〇〇冊を発行
- 10月1日 山田耕三郎氏・守田厚子氏の両名誉市民来館。小栗栖健治氏(兵庫県立歴史博物館) 来館、第22回運営会議、館内会議開く
- 2日 楊国俊中国牡丹江市市長ほか五名、宇野茂樹氏(当館収蔵品収集審査員) 来館
- 3日 大津京遺跡見学会を開催
- 6日 吉田清氏(花園大学教授・平井一廣氏(安土城考古博物館長) 来館
- 8日 武田恒夫氏(当館企画委員) 来館、収蔵品収集審査会開く
- 9日 親子歴史講座(古代の遺物に触れよう)、ユルゲンリウエーバー(ドイツツヴェルツブルク市長) ほか45名来館
- 13日 斎藤一美氏(NHK大津放送局長) 来館
- 17日 シンボジウム「大津京、その謎を追う」を開催(市役所別館大会議室)
- 23日 第71回土曜講座「大津京展示品解説」
- 30日 大津京展特別講座「古代の食事」(講師山中章向日市埋蔵文化財センター長)
- 11月2日 館内会議開く
- 3日 大津京展特別講座「古代の織物とその技術」(講師高野昌司株式会社川島織物資料室)
- 6日 大津京展特別講座「古代楽器のコンサート」(講師松澤修ほか県文化財保護協会技師)
- 9日 湖西ブロック読書研究会研修会、高橋徹氏(朝日新聞社編集委員) 来館
- 10日 第23回運営会議開く、芸術文化振興基金協会一行来館
- 11日 鈴木靖将氏、関治夫(日本IBM) 来館
- 13日 親子歴史講座「古代瓦の拓本を探ろう」
- 14日 「よみがえる大津京」展閉幕、観覧者数一・二四七人
- 19日 松本幸一氏(今津町教育長)、都東烈氏(韓国東義工業専門大学教授) 来館
- 20日 ふるさと大津歴史教室「西教寺と坂本里坊庭園」開催、近畿高校総合文化祭書道部門開かれる(28日まで)
- 21日 橋本鉄男氏、原泰根氏(近畿民俗研究会会長) 来館
- 27日 ふるさと大津歴史教室「諸浦の親郷堅田」開く
- 12月2日 大田佐卿書道研究所会員展開かれる(5日まで)
- 3日 館内会議開く
- 4日 ふるさと大津歴史教室「大石の里に歴史をさぐる」開く

博物館だより 第17号

発行日 平成六年一月五日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館
電話(〇七七五)二二二二〇〇代